

情報文化 学生瓦版

2016年9月30日
第109号

発行 情報文化学科

社主 田口トヨフク
編集長 トフルル
顧問 松村オキヤン
木部エツケン
八木ウケツク
山本ティエス
藤井シービー
相春日オーピー



10月5日(水)
株式会社ラックによる
特別講義

行事 第三回英語教育研究会
9月24日(土) 江戸川大学にて第三回英語教育研究会が開催された。先生方は英語教育に対する熱い思いや、意見をかわされた。 2面



第三回英語教育研究会

視点を变えて英語に触れる



平成二十八年九月二十四日、江戸川大学で第三回英語教育研究会が行われた。研究会には多くの先生方が参加された。研究会は情報文化学科長の玉田和恵先生の挨拶から始まった。

最初に東京大学教授の山本史郎先生が「私のアクティブラーニング」というお話をしてくださった。「アクティブラーニング」はよく耳にする言葉だが、先生は教える立場であるという理由から「アクティブラーニング」をタイトルにしたとのことだった。アクティブラーニングで大切なことは「学生参加」である。従来の講義では「聞くかどうかは学生の自由」、「学生は頭を使わなくてもよい」、「知識は限りなく教え尽きない」などの問題点がある。それらを解決するために予習や、先生と学生、また学生間の対話などによって授業を活性化させるのだとおっしゃっていた。

山本先生は模擬授業として川端康成の『雪国』の冒頭「国境の長いトンネルを越えると雪国であった。夜の底が白くなった。信号所に汽車が止まった」という文章を英文訳するということを行ってきた。日本語では抽象的な表現が多いが、英語の場合は具体的に説明しなければならぬ。翻訳するにも相手にわかりやすく、伝わりやすい表現の仕方をしなければならぬのだと感じた。



研究発表をされる先生方の様子
(左から鈴木先生、松村先生、山本先生)

とともに、本学・本学科ならではの学びについて紹介して下さった。アクティブラーニングの例として、今年の前期講義の課題が挙げられた。「茶室」をパソコンで描き、英語でプレゼンテーションするというものだ。茶室を描くにあたっての条件は、四畳半以上であること、掛け軸に書かれた四字熟語の意味を述べること、生け花を飾ることであった。作品はどれも個性が溢れていた。茶室」というもののイメージがでず苦戦していた。一方、日本の文化を英語で表すことに慣れない日本人学生は英文を書くことに苦戦していた。それぞれが、英語表現について改めて考える機会となった。

次に本学科講師の鈴木哲平先生が「TeacherはかつてみなTeacherだった。留学の体験を授業にどう活かすか」というタイトルでお話して下さった。先生は、日本の大学でフランス語と英語

英語アクティブラーニングの巻!

英語(日本語で表現の方法は異なります)

川端 康成『雪国』
夜の底が白くなった

例えは...
何と表現しているか?

世界に向けて
学生を送り出すための
情報文化学科では
様々な取り組みをしています

松村 豊子先生

恋人同士よのに
Ich liebe dich.
スイスに留学した
鈴木 哲平先生

その後も意見交換は続き
高校の先生
教育実習生

大変有意義な研究会
となりました

作: 藤井 パティック

英語でひとこと 【Creating Excitement in the Classroom】

チャールズ・ボンウェルの言葉で「アクティブ・ラーニング」の意味である。アクティブ・ラーニングというのは、能動的に学習している状態であり、学生たちが教室内で、前を眺めている・聞いている・ノートを取っている、という受動的な学習とは正反対の活動である。学んだ知識や情報を学生間で共有し、各自が意見を述べ、討論する。教える先生もこの流れを促す。これが、かの有名なハーバード大学の自熱教室である。江戸川大学では、英語教育におけるアクティブ・ラーニングについて研究発表が行われた。会場は、講師の先生方と現役大学院生、そして、他大学や近郊の高校の先生方の熱気で、自熱教室そのものであった。(春日 オーピーエー)

英声学語 (えいせいご) (がくご)

冷たい雨が降りしきる中、江戸川大学にて、第三回英語教育研究会が開催された。今年も沢山の先生方が集まり、英語力とコミュニケーション能力を培うための教育について、研究発表がなされた。グローバル時代において、国際的に活躍できる人材を育成するために、英語で何を、どこで、どのように教え、学ぶか。これが課題である。大学や高等学校で英語を教える先生方が、アクティブラーニングとアクティブラーニングについて意見を交わされた。近年、海外研修・交換留学制度の導入が推奨されている。海外で学ぶことは、人生を豊かにする素晴らしい異文化体験である。共通言語である「英語」というコミュニケーション手段の習得が必須だ。今後はテスト勉強のためだけではなく、グローバルコミュニケーションの二環として英語を学びたい。

(関口トフル)

アクティブ・ラーニングを始めるのは今でしょ!!!

グローバル時代は英語で勝負だ!

一部0円、費用0円、制作機器 配布パソコン